

“個別化教育時代”の開幕にあたって

——「指導の個別化」とともに、「学習の個性化」をめざして——

副会長 加藤 幸次

クラスに30人いれば30人、40人いれば40人、一人残らず学習してほしい、というのが私たちの長年の願いです。教師なら誰れしもそう願っているにちがひありません。むしろ、子どもたち一人ひとりの学習成立をめざす「個別化教育」という主張が遅すぎた、とさえ思われます。

喜ばしいことですが、この一、二年の間に、急速に、条件がととのってきました。なにより教材がきわめて豊富になってきました。印刷も、コピーも、安く簡単にできるようになってきました。さらに、「多目的スペース」が登場してきました。小、中学校合わせて、500校近いオープン・スクールが今年建てられます。「空き教室」の多目的スペース化もはかれます。本年に入って、マイクロ・コンピュータの小・中学校への導入が決定されました。CAIとしてだけでなく、CMIとしての利用も期待できます。これで個別化教育のためのハードウェアがととのってきた感じがします。

問題は、これらの条件を活かして、子どもたち一人ひとりの学習成立をめ ず個別化教育を実践に移す、ということです。すなわち、ソフトウェアの問題です。これこそ、私たちに課せられた緊急の課題です。

一つは、よく言われるように、子どもたち一人ひとりに「わかる授業」をどのように計画し、実施し、評価して行くべきか、という課題です。たしかに、「落ちこぼれ」なく、どの子にも理解できるような授業を行うべきです。そのためには、どうしても、クラスの子どもたちの間にある「学力差」や「学習時間差」や「学習適性差」を考慮しなくてはならないはずですが、まず子どもたち一人ひとりへの学力の実態をしっかりとらえたいと思います。また、一斉授業では無視しがちな、一人ひとりの子どもが学習に必要な時間にも考慮したいと思います。さらに、子どもたちのもつ学習や思考のスタイルをとらえ、生かしたいと思います。こうした子どもたちのもつ特性をとらえ、生かすことによってこそ一人ひとりの子どもに「わかる授業」を行うことができる、と信じています。

他の一つは、なかなか気付かれていないことですが、「その子にとって意味ある授業」をどのように計画し、実施し、評価して行くべきか、という課題です。そのためには、どうしても、クラスの子どもたちの間にある「興味・関心差」や「生活経験差」を考慮しなくてはならないはずですが、そのことによって、わたしたちは子どもたち一人ひとりの「良さ」や「こだわり」を育ててやることができると考えています。人間は、まさに、一人ひとり、自分の世界をもち、拡げて行くものです。このことに注目して行きたい、と思います。

幸いにして、昨年12月には、個別化教育を推めるための手引きが発行されました。文部省が公にした「個人差に応ずる学習指導事例集」がそれです。この手引きを一つの寄りどころにしなが、個別化教育のもつこの二側面をバランス良く保った教育課程をつくるべきではないか、と考えています。(国研 主任研究官)

夏季研修会予告

- テーマ 個別化教育の進め方と教材づくり
 - 期日 昭和60年8月5日(月)～6日(火)
 - 会場 板橋区教育相談所
所在地 東京都板橋区坂下2～18～1
電話 03(967)6181～2
交通 地下鉄・都営三田線「蓮根」下車3分
 - 会費 1万円(資料・材料費を含む)
 - 講師 国立教育研究所主任研究官 加藤幸次先生 他
 - 内容 第1日 個別化教育の進め方・教材づくり
(講義・協議・教材の紹介)
第2日 個別化教育のための教材作成
(講義・協議・教材作成)
- 〈くわしくは次号で、お知らせします〉

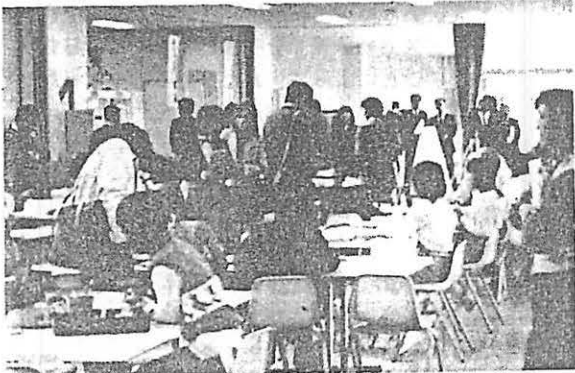
3回目のオープンスクール実践研究会を開催

——愛知県卯ノ里小学校——

愛知県知多郡東海町立卯ノ里小学校において、11月16日第3回オープンスクール実践研究会が、北は北海道から南は沖縄までの全国各地から450人をこえる先生達が集まり開催された。

卯ノ里小学校は、54年開校以来「主体的に行動できる子」の教育目標に向って、オープンスペースを有効に使用して指導の個別化と学習の個性化の実践を進めている。

従来の教科・道徳・特活の3領域を、低・中・高学年の発達段階から学ぶ様相を考慮し、教育課程を6領域に編成しており、今年の発表会は、この中の集団活動、なかよし学習・個別学習・自由活動を公開した。



集団活動は、全校の子供を12の班に分けた縦割グループ(ここにこ団)による活動で、その内容は「紙芝居をしよう」「うさぎと遊ぼう」「紙工作をしよう」などで低・高学年の子供達が楽しく協力合っていた。

自由活動は、子供の自由な発想による学習の個性化をねらいとするもので3年以上の学級・学年の枠をはずし教科の枠をもこえた全く自由な形で行われており、学校のあらゆるスペースでテーマに従って活動している。

教科の学習では、低学年ではなかよし学習(合科的学習)が行われた。これは、生活経験を重視した総合的な学習活動で、子供の発想や子供の生み出す活動を大切にしたものである。子供たちは、ワークスペースいっぱいに、自分達が作ったものや材料を持ち寄り劇の練習や店作りに一糸懸命であった。高学年では、国語・算数・理科などで個別学習が行われていた。これは、計画力・実践力・問題解決力を育てる自学を中心とした学習活動で子供達は多くの学習材を使って取り組んでいた。

午後からは、活発な研究討議が行われ、その後、日本視聴覚教育学会会長、主原正夫先生による「学習活動成立の条件」について講演会が持たれ盛況のうちに会を閉じた。

個別化教育実践発表

自らにはたらきかけて、いきいきと学ぶ

——岐阜県池田小学校——

昨年の11月30日、全個教連加盟校である岐阜県の池田小学校(松岡勝治校長)で、第二回「教育の個別化研究発表会」が開催された。今回は学習の個性化実践について、低学年の合科的学習、理科・社会科を中心とする課題別学習が公開された。いずれもT・Tによる展開で、児童の興味関心・意欲を大切に、児童が自ら課題を選択し計画をたて情報資料を収集活動して学習をすすめていくものである。これを助ける掲示・具体物・学習プリント・VTR・CAI・シンクロ等豊富な学習材料が用意されており、いきいきと礼儀正しく、自らにはたらきかけて学習をすすめる姿はやる気に満ちたものであった。全教師一丸となつての5年間にわたる継続努力の成果である。

各種の学習コーナー・環境構成の工夫にもそれが窺われ、オープン構造を持ち地域に開かれた学校をめざす池田小の施設と教育理念・方法の一体となった姿として受けとめられた。毎年2000人を越える参観者を迎えているが、今回も北海道・九州・沖縄に至る全国から650名にのぼる参観者は、自主性創造性を鍛えやる気を持たせて個性能力を伸ばす池田小の個性化教育の実践に深い感銘をうけた。その他に算数の「はげみ学習」が公開された。多目的ホールに3年生以上が集まり、自分の達成度・速度に応じて全校T・Tで展開され、この時間はノングレードであった。また、「いずみの時間」は4年以上が興味関心に基づいて継続的に自由研究を行う個性的な学習として公開され全校T・Tであった。

分科会、全体発表の後、この学校を5年間にわたって指導してこられた全個教連副会長の国研の加藤幸次先生阪大の水越敏行先生による「個性化教育の可能性について」対談が行われ、参会者一同個別化教育の具体的展開と、その理念・教師の役割について学習した。

自由にパソコンを操作し、CAI学習を進める児童の姿がたのしく、印象的であった。



オープン・スクールの研究を発表 学級の枠を超え、生き生き と学習する子ども達

——島田市立初倉小学校——



島田市内にオープン・スクール形式の小・中学校は数校あるが、初倉小学校は昭和56年11月に改築された児童数616名の学校である。

11月30日、オープン・スクール構造の特色を生かした教育指導法の研究発表会が行われ、県内各地はもとより北海道、福島、長野、千葉の各県より、教育関係者250名が集まり参観した。

公開授業では、学級の枠を取りはずし学年全体で進度別に小グループを作り算数授業を行ったり、興味別の合科学習が行われた。

低学年の合科学習では、理科が主軸の「あきがいっぱい」と社会科が主軸の「子どもゆうびんきょくをつくろう」のそれぞれのテーマで、一人ひとりが身体いっぱいを使った体験的な活動が公開された。

中・高学年では、それぞれの学年が算数教科で習熟度別に小グループを編成し、個々に応じた学習材を活用した学年教師による協業指導を効果的に進める風景が見られた。

公開授業後、三分科会にわかれて研究協議も行われたが、同校の荒木校長は「校舎様式を生かし、個々に応じた学習指導法の研究を進めてきた結果、子ども達は真剣に学習にとり組み遊んでいる子が少なくなってきた

合科学習では、子ども達が自然環境を利用して体験することによって興味や関心が高まり意欲的に活動しているので、社会や自然に対して目を向けるようになってきた。また、習熟度別による算数教科の指導では、大部分の子どもは自分のペースで学習を進めるようになってきている。進度の遅れている子も個別学習に近い授業形態によって生き生きと取り組んでいる。このことは本校の教育目標自ら学ぶの自学精神が定着してきていると言える」と話している。参観者達は、同校のユニークな授業風景をとらえたり、分科会で熱心に質問したりした。

実践研究会へ 全国から2300余名が参加！

——愛知県・緒川小学校——

児童の個性化教育を推進している愛知県の緒川小学校（新美一成校長、児童909人）では、2月1日と2日の両日にわたって、「第5回オープン・スクール公開実践研究会」が開かれた。

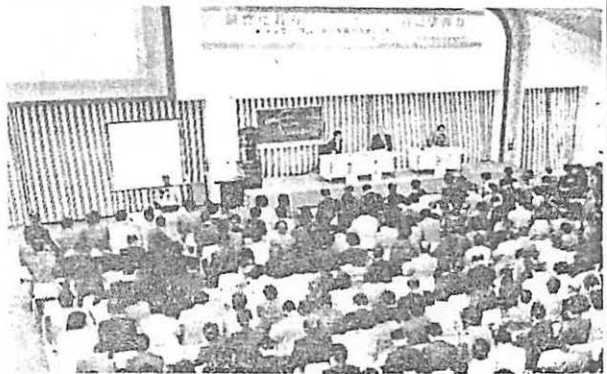
同校は、53年の校舎全面改築を機に、オープン・スペースをとり入れた学校として生まれ変わり、自分の計画に従って学習を進めるオープン・タイムや基礎的・技能的内容を定着させるためのはげみ学習、生活体験に根ざした主題のもとに展開される総合的学習、自学を進める週間プログラムによる学習など、生き生きとした自らが学ぶ教育を推進している。

施設面では、教室の廊下側の間仕切りがなく、広々としたランニング・センターや多目的ホールに、プレイ・ルームも備えるなどしている。

研究会には各地から、大学教授、小・中学校の先生、大学生、一般の方々など、1日目には1,500人余り、2日目には、800人余り、2日間で2,300余名の人々が訪れた。

1日目には、午前中学習公開があり午後は東洋東大教授、梶田毅一阪大助教授、加藤幸次国立教育研究所主任研究官を招いてのシンポジウム「自己学習努力をめぐって」もあり、満席のホールは熱気がみなぎっていた。

2日目には、学習公開に次いで、同校職員とのフリー・トーキングが3分科会に分かれて行われた。同校の6態様の学習内容や児童理解(評価)について話し合われた。また、同校では、「個性化教育へのアプローチ」に続く「自己学習力の育成と評価」(オープン選書8巻)を明治図書から出版した。同校にとって2冊目の出版になり校長以下全取員が2年がかりでまとめた。出来上がった冊子はA5判、220ページ。「個性化教育のプログラム」「本校の教育活動と評価」「自己学習力に連なる児童理解」などの5章から成っている。





東京では今、梅一輪…というところ。全国の会員の皆様、ことしもよろしくお願ひいたします。

関東地区では、第2回研究会を、60. 2. 16(土)に開催しました。参加者約50名。文部省から出された事例集の第1章、第2章の読み深めを、実践発表もふくめて夕方遅くまでいたしました。

地域研究団体の結成を念じつつ。(60. 2. 17)

事務局会を

とき 59.11.21 ところ 金沢小学校
染田屋謙相会長・加藤幸治副会長はじめ、事務局員多数の出席をえて、開催。
所要の報告のあと、当面の活動方針について審議。詳細は、別掲理事会報告と重なるので、ここでは割愛。年末学期末の、多忙な時期であったにもかかわらず長時間にわたって熱心に協議してくださって、理事会への提案事項がまとまったことはありがたかった。

ひらきました

理事会を愛知県で

とき 60. 2. 1. ところ 愛知県・緒川小学校
出席者 染田屋会長 加藤副会長 大竹理事
岩間理事 松岡理事 高橋理事
荒木理事 前崎理事 久利理事
高木理事 新美理事 松崎理事
(代理出席をふくむ)

次 第

- 1. あいさつ 全個教連会長 染田屋謙相
- 2. 報 告 同事務局長 松崎 二葉
- (1) 会員数について
- (2) 会計について
- (3) 活動について
 - 会報発行 No1 No2 既発行
 - No3 2月末発行予定
 - 研究会紹介 池田小、卯ノ里小、緒川小
- (4) 事務局会の開催について
- 3. 審 議
- (1) 地域の研究組織の結成とその促進について
 - ア. 全個教連の地方支部という考え方ではなく、全個教連の加盟団体という位置づけの研究組織とする
 - イ. 地域の範囲は、運営しやすい範囲とする一定の行政区画にこだわらないでよい。(町

・市・郡・県・地方のいずれでもよいし、このような行政単位を用いなくてもよい)

ウ. 各理事が、それぞれの地域で、中心となって促進する。60年10月末をもって、第1次目標日と定める。その日までに、極力ご努力のうえご結成いただきたい。

エ. 趣旨を同じくする既にある団体に対しては、加盟方をおすすめする。

(2) 地域の研究組織(A)と全国個別化教育研究連盟(B)との関係について

ア. Aは、自主的に、定例研究会や研究発表会等を行う。Bは、会報の発行、夏季研修会の開設等を行う。AはBに対して、情報を送りBはそれらを全国的に紹介する。

イ. 会員は、Bに対して、年会費2,000円を納入すると共に、Aに対しても、Aの決める会費若干円を納入する。

ウ. Aの役員代表者は、Bの理事であることが望ましい。

エ. Aは、Bの設立趣旨、会則をふまえたうえで、会則等をお決めいただきたい。

(3) 全個教連の定期総会について

ア. そのためだけでは出席者も少ないであろうことを予測して、全国向けの研究発表会が、どこかで行われる時、日程の一部を利用させていただいて開くこととする。

イ. 東京と地方との交互開催ができるよう、ご協力をいただきたい。

(4) 普及について

ア. 全国向けの研究発表等を行う学校にあっては、支障のない範囲で、全国個別化教育連盟の名を用いていただく。

たとえば◎第〇回個別化教育研究全国大会と併称する

◎全国個別化教育研究連盟後援とうたう など

4. 閉 会

ひらきました。 緒川小のみなさん、理事のみなさんありがとうございました。

連盟へのご用は………

お問合わせやご助言は
〒173 東京都板橋区加賀2丁目2番1号
板橋区立金沢小学校
電 話 (03) 964-3068 (校長室)
全国個別化教育研究連盟事務局長 松崎 二葉
加入手つづきは
〒174 東京都板橋区小豆沢4-13-1
板橋区立志村第四小学校
電 話 (03) 966-3542
全国個別化教育研究連盟事務局次長 清水 昭